

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 ぎふ花と緑の振興コンソーシアム運営負担金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き振興係 電話番号：058-239-3163 (内線116)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,000 千円 (前年度予算額：7,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 財 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,000	0	0	0	0	0	0	0	7,000
要求額	3,000	0	0	0	0	0	0	0	3,000
決定額	3,000	0	0	0	0	0	0	0	3,000

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・県では「清流の国ぎふ花き振興計画 (第3期：R8～R12)」を策定し、本県花き産業の振興を図るために、様々な施策に取り組むこととしている。
- ・本県花き振興の推進エンジンである「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」は、県、教育機関、金融機関などで構成し、産学金官の異業種連携の枠組みで、花文化を推進するイベントや研修・セミナーの開催、産学官連携の促進のための会員間連携・マッチングを通じた新商品開発や情報発信を中心に行ってきた。
- ・生活における花と緑の提案等、需要喚起を中心に取り組んだことで、R6の「切り花・園芸用植物購入額」はR7目標の約8割を達成し評価される一方で、R6の「花き生産額」については、R7目標の約6割に留まっている。
- ・県の花き生産額は、平成15年の97億8千万円をピークに減少傾向にあり、その背景には、生産性低迷や新技術導入の遅れ、担い手不足、高齢化などが考えられ、また、全国的な花き消費の伸び悩みや輸入花きの増加といった構造的な課題にも直面している。
- ・そのため生産現場の具体的な課題に対し、実践可能な解決策を導き出せるよう同コンソーシアムの体制を整えて、解決に向けた対策に取り組み、生産振興を図る。

(2) 事業内容

県の花き産業が抱える課題は多岐にわたり、画一的な施策では対応が難しい状況であるため、個々の生産現場が抱える具体的な問題（病虫害対策、特定の品種の栽培効率化、出荷プロセスの改善、労働力不足への対応等）に対し、オーダーメイド型の解決策を導き出す実践的アプローチが必要。

このため、生産振興部会を設置し、「課題解決型」へとコンソーシアムの機能を深化させ、現場のニーズに即した具体的な実証と導入支援を行うことにより、生産現場の具体的なボトルネックを解消し、生産性を向上、ひいては持続的発展を図り、県全体の花き生産額向上につなげる。

○課題解決型ワーキンググループ（WG）の設置

生産現場から吸い上げた具体的な課題をテーマとして設定。

<想定されるWG>

- ① 生産技術革新WG
- ② 販路戦略WG
- ③ 高温対策WG

○現場の課題に対する実証試験（新技術導入支援等）の推進

課題解決型WGで検討された具体的な解決策（新栽培技術や高温対策等）について、岐阜県内の花き生産現場で実際に導入し、その効果を検証。

(3) 県負担・補助率の考え方

県の花き業界が企業、金融機関、研究・教育、行政など幅広い分野の構成員と協同事業を行う「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」は、花き業界全体の活性化と県の花き生産の振興に取り組むために令和3年4月に設置された団体であり、生産基盤を強化することで、消費者がいつでも高品質な岐阜県産花きに触れられる環境を維持し、県民生活の質の向上に寄与するもので県民の健康で心豊かな生活の実現を目指す県条例の目的に沿って活動していることから、県の参画が妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	3,000	ぎふ花と緑の振興コンソーシアム運営負担金
合計	3,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）の基本方針2「潜在力をフル活用した生産強化」

ぎふ花と緑の振興計画（仮称・令和8年3月策定予定）の1「花と緑の生産振興」

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・生産現場での課題を検討する場を設置し、栽培技術や販売等の課題の解決策を提示することで課題解決を図り、花き産出額の向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
①主要品目の花き産出額(億円)	—	43	—	46	53	81%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「花きの日」PRのためYahoo!広告を掲出し県内10万人が閲覧した。また県内5圏域の商業施設において、「花きの日」PRの特設コーナーを設置(8/2～8/14まで)したことによって、県民生活での花きの利用促進が図られた。 ・花き振興企画コンペティションの優良提案7件について、コンソーシアム会員と連携した商品作り等を実施した。
	指標 花き消費額 目標：15,673円 実績：12,467円 達成率：79.5% 指標 花き輸出額 目標：100,000千円 実績：32,467千円 達成率：32.5%
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「花きの日」PRのためYahoo!広告を掲出(27.6万回)し、県民生活での花きの利用促進を図った。 ・花き振興企画コンペティションの優良提案5件について、コンソーシアム会員と連携した商品作り等を実施した。
	指標 花き消費額 目標：15,673円 実績：15,091円 達成率：96.3% 指標 花き輸出額 目標：100,000千円 実績：27,062千円 達成率：27.1%
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・10月26、27日の2日間、県庁周辺でぎふフラワーフェスティバルを開催し、来場者(約21万7千人)に県産花きやその活用をPRした。 ・10月12日に高校生花いけバトル花きの日大会を開催し、日本の花文化を現代の高校生にも親しみやすい形で広めるとともに、来館者(約700人)に新しい花文化の提案・PRを行った。
	指標 花き消費額 目標：15,673円 実績：12,201円 達成率：78% 指標 花き輸出額 目標：100,000千円 実績：48,583千円 達成率：49%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	コロナ禍により様々な価値観が見直されている中で、消費者生活における花と緑の重要性に注目が集まっており、花き振興条例の理念達成に向けて本事業の必要性が増加している。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	コロナの影響で生活様式が変化した中で、自宅で花や緑を購入する個人消費が定着し、家計調査においても、事業開始前と比べて、切り花・園芸用植物の需要が着実に増加している。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」の会員と連携して事業を展開することで、効率化が図られている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 花いけバトル等の新たな花文化の提唱や生活における花と緑の提案等、需要喚起を中心とした取組みを推進し、これらの活動は消費者の関心を高め、花き需要に一定の成果を上げることができた一方で、花きの生産額が右肩下がりの状況である。そのため、生産性低迷、担い手不足等、生産現場の課題に直結した対策を講じる必要がある。	
--	--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 生産現場から吸い上げた具体的な課題に対し、産学金官の専門家が連携して解決策を導き出し、実証試験を通じてその効果を検証・普及を目指す新たな仕組みに取り組む。これにより、県内の花き生産基盤を根本的に強化し、生産者の経営安定化を図り、県民に安定的に花きが生産できる体制を維持する。	
--	--